

熊本駅周辺地域等整備について

熊本県土木部都市計画課都市圏道路整備室

山内 稔

1 はじめに

熊本市は人口65万人を擁し、九州の中核都市として更なる発展が期待されており、活力のある都市活動を支える都市基盤の整備を図り、21世紀に向けた魅力ある都市づくりを行う必要がある。

このなかで熊本駅周辺地域は、JR鹿児島本線により東西に分断され、都市の一体的な発展と交通の円滑な走行が阻害されている状況であるため、JR鹿児島本線等鉄道高架化をはじめとする都市基盤の整備を図る計画を策定し、平成9年7月に熊本県、熊本市には「JR鹿児島本線等鉄道高架化および熊本駅周辺地域等の整備に関する協定」の締結を行ったところである。

さらに、平成10年1月の政府・与党整備新幹線検討委員会での九州新幹線（船小屋～新八代）の年度内着工の優先順位が決定したことは、新たな広域高速交通結節機能整備の推進となり、熊本駅周辺地域の整備とともに、21世紀の熊本県の浮揚にとって欠かせない緊急かつ重要な事業となるものである。

2 まちづくりの理念

熊本駅周辺地域を「出会いとふれ合いの副都心」として位置づけて、次の理念により整備を行う。

●出会いとふれ合いのあるまちづくり

県都の玄関口としてその魅力をさらに高めるため、交通結節の向上を図り、多様な「出会い」や「ふれ合い」の場として人、もの、情報が活発に交流する副都心づくりを進める。

●人に優しく利便性の高いまちづくり

公共交通機関が結節する駅周辺を中心に、高齢社会に対応した県市民の利便施設を配置して、若者や家族連れが集うような、人に優しいまちづくりを進める。

●水・緑・歴史制を活かしたまちづくり

訪れた人や地域の人に、熊本らしさを感じる街並や良好な住宅地の形成を図り、「水・緑・歴史性を活かしたまちづくり」を進める。

3 まちづくりの方針

土地利用の現況とこれからの動向を踏まえ、まちづくりの理念に基づき具体化を図るため、ゾーンを設定して、各ゾーン毎の土地利用の方針を定める。

●人と情報の交流ゾーン

東西駅前広場は、「人と情報の交流広場」として位置づけ、シンボル性の高いオープンスペースを確保する。

また、広域交通結節機能、行政機能をはじめ商業・業務機能を誘導するなど、人と情報の交流を図る。

●情報社会を切り開くゾーン

情報発信拠点と一体となる総合的な情報拠点が形成できるよう、文化、情報機能やそれを支える宿泊・居住・商業・業務機能を誘導して、魅力的な都市文化・生活文化の発信を図る。

●生活文化を創造するゾーン

駅西側の駅前広場に面して生活文化創造施設を誘導し、成熟社会に対応した拠点形成を図るとともに、良好な都市環境が整った都市型住宅機能の整備を図る。

●地域コミュニティを育むゾーン

県・市民の多様な集まりに対応できる交流機能を誘導し、地域のコミュニティを保持しつつ、市域全体のコミュニティの形成を図る。

●新しいタウンライフを提供するゾーン

時間消費型の新商業施設（ショッピング、劇場、アミューズメント施設等）等を誘導して、新しい都市活動の拠点の形成を図る。

4 交通基盤の整備方針

熊本都市圏広域道路網整備体系を基本として、これを補完する幹線道路を整備することにより、一体性の確保、駅周辺に集中する交通を円滑に処理して、地域のもつ自然を活かした交通基盤の整備を進める。

●主要な道路の整備

広域道路網整備方針に基づき、既存の道路の改良に加えて、新たに（仮称）東西連絡道路、（仮称）熊本駅西南北線、（仮称）熊本駅南線、（仮称）二本木東西線、（仮称）二本木線の整備を行うことにより、熊本駅への交通アクセスを強化する。

●駅前広場の整備

駅の東側、西側に来熊者や県民、市民に対応した利便施設を配置して、「出会いとふれ合いの広場」を形成する。

●水と緑を活かした歩行系ネットワークの形成

水・緑と歴史のネットワークの中心軸として、駅周辺と万日山、白川、坪井川を結び、駅東西の一体化を図る「アメニティ軸」を広幅員の歩行者専用道路などとして整備し、「出会いとふれ合いの道」を確保する。

5 地区別のまちづくりの方針

駅周辺地域の整備が必要な地区を、幹線道路、鉄道施設や川などの地理的状況から8地区に分け、その地区毎のまちづくりの方針は次のとおりとする。

地 区 名	位 置 づ け	導 入 機 能 イ メ ー ジ
西	生活文化創造ゾーン 人と文化の交流ゾーン	生活文化創造機能、行政機能 都市型居住機能、・商業・業務機能
東（Ａ）	情報化社会のゾーン	文化情報機能、商業・業務機能 都市型居住機能
東（Ｂ）	人と情報の交流ゾーン	商業・業務機能、都市型居住機能
二本木（Ａ）	地域コミュニティゾーン	情報交流機能
二本木（Ｂ）	地域コミュニティゾーン	商業・業務機能、宿泊機能 居住機能
南（Ａ）	人と情報の交流ゾーン	広域交通結節機能、商業・業務機能
南（Ｂ）	新しいタウンライフのゾーン	新商業機能、都市型居住機能
北	情報化社会のゾーン	商業・業務機能、教育情報機能 居住機能、宿泊機能

6 おわりに

これらの事業は、県にとって百年の大計ともいふべき大事業であり、県政を牽引するのみならず九州の中核を担う都市としてのまちづくりとともに、かつ、県政の最重要課題でもある九州新幹線の建設をも見据え、21世紀を展望した熊本駅周辺等の整備計画は、地元経済界、県民の参画と協力を仰ぎ、県、市の協力で進める事業である。